



びわ湖の生き物ワークショップ

学習のねらい		
<p>○湖岸の生態系の一例から課題を見つけ、すべての生き物がすみやすい湖岸の在り方について考えることができる。</p> <p>○様々な生き物の立場で意見を出し合い、グループ内で協議しながら、より良いびわ湖のために必要なことを考えることができる。</p> <p>○びわ湖の課題の一端を知り、保全再生に向けた意識を高めることができる。</p>		
準備物		
うみのご船内で準備できるもの	乗船校で準備するもの	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークショップ活用シート ・ ワークショップスライド資料 ・ ワークショップヒントカード ・ ホワイトボード ・ パソコン ・ プロジェクター 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート 	
主な学習の流れ	ポイント (○) 及び留意点 (☆)	
はじめ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本学習のめあてを確認する。 2. 現在のびわ湖の生態系について考える。 (乗船前学習でも可) 	<ul style="list-style-type: none"> ○フローティングスクールのテーマとのつながりを意識して示す。 ☆他の活動で情報収集できる部分がないか、あらかじめ確かめておく。 ○びわ湖の生態系を考えるために、「びわ湖の魚介類の漁獲量の推移」と「現在のびわ湖の湖岸イメージ」を示す。
なか	<ol style="list-style-type: none"> 3. ワークショップスライド資料を見てワークショップの進め方を確認する。 4. 各班でワークショップを行う。 5. 各班で作成した「湖岸のイメージ」を発表する。 6. ワークショップスライド資料を見て、びわ湖の生き物に関わる課題について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の知識や他の活動から得た情報なども活用して話し合うように伝える。(ワークショップヒントカード を活用することもできる) ☆現在の湖岸のイメージは一例であることを確認する。 ○児童がそれぞれの生き物の立場に立って話し合い「すべての生き物にとってすみやすい湖岸」や「特定の生き物にとってすみやすい湖岸」についてなど、考える視点を工夫する。 ○作成した「湖岸のイメージ」に根拠や理由をもてるように指導する。 ☆ワークショップでは、正答を求めないため、児童の考えを追究していく意欲付けを行う。 ○在来種の保全再生の重要性を伝えられるように工夫する。
おわり	<ol style="list-style-type: none"> 7. 本学習のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○フローティングスクールのテーマとのつながりを意識しまとめができるようにする。 ○学習のまとめ②や乗船後の学習につながるようにする。

(※1) 活動場所・・・ 活動室

(※2) 実施時期・・・ 通 年

※うみのご船内で準備できるものについては、児童・指導者の人数や班の数に合わせて準備することもできます。